

ザ・グレート・フリーズ（雇用の大停滞）

リッテル・ディアス博士

国際コンサルタント

2025年11月1日

新しい経済の概念

アメリカでは今、「ザ・グレート・フリーズ（The Great Freeze）」という言葉が広がっています。これは、経済が成長し、企業が利益を上げているにもかかわらず、採用（雇用）がほとんど止まっている状態を指します。企業は商品を作り続け、新しいプロジェクトを進め、技術にも投資しています。にもかかわらず、新しい仕事はあまり増えていません。その理由は人工知能（AI）と自動化が企業の働き方を変えているからです。

人が減り、機械が増える

これまで人が行っていた仕事、たとえばデータ整理やカスタマーサービス、事務作業などは、今ではコンピューターやAIが担っています。もちろん、何百万人もの人が突然職を失ったというわけではありません。しかし、企業は少ない人数で同じ量の仕事をこなせるようになったのです。アメリカ連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長もこう述べています。「政府の統計を調整すれば、実際の雇用の増加はほとんどゼロに近い。」

経済は元気でも、雇用は冷え込む

数字を見る限り、経済は順調に見えます。経済成長は続き、消費も活発で、企業はデータセンターやAIシステムを次々に建設しています。しかしその裏では、雇用のリズムが大きく変わっています。技術が進歩するたびに企業は効率化し、以前ほど多くの人を雇う必要がなくなるのです。これは一時的な景気の落ち込みではなく、仕事と生産性の関係そのものが長期的に変化していることを意味します。

勝者と敗者

この変化が起こす影響は、すべての人に同じように及ぶわけではありません。大企業や、ソフトウェア開発者・AIエンジニアといった技術力の高い人々は恩恵を受けています。一方で、事務職や中間管理職、新卒者などは仕事を見つけるのが難しくなっています。

経済学者はこの状況を「K字型経済（K-shaped economy）」と呼びます。「K」の字のように、線の一方は上向きで、技術の恩恵を受けて収入が増える人々を表し、もう一方の線は下向きで、

取り残される人々を表しています。この現象は、進歩はすべての人に平等ではないということ、そして社会が不利な立場にある人々を支援する政策を必要としていることを指摘しています。

若者たちの厳しい現実

特に大学を卒業したばかりの若者にとって、この状況は大きな壁となっています。かつてキャリアの出発点となっていたマーケティングや金融、事務職などが、次々と自動化されているためです。そのため、多くの若者が大学院に進学したり、AIには代替されにくい技術職やクリエイティブな分野に進路を変えたりしています。

政策担当者にとっての課題

FRBや政府にとって、「グレート・フリーズ」は大きな挑戦です。AIと自動化は経済の成長を支え、生産性を高めています。しかし同時に、労働者の雇用機会を減らす結果にもつながっています。金利を下げるなど、これまでの経済政策の手法ではこの問題は解決できません。なぜなら、これは需要や消費の問題ではなく、最新の技術が「仕事のあり方」そのものを変えているからです。

新しいタイプの経済へ

「グレート・フリーズ」は、従来の不況や危機とは異なります。それは「変革（トランسفォーメーション）」だからです。経済は成長を続けていますが、人々がその成長の恩恵を受けられるかどうか；収入・仕事を確保できるかは狭き門となっています。これまで当然とされてきた「経済成長＝雇用増加」という考えを、私たちは見直す必要があります。AI時代では、もはやそれが当てはまらないと言えるでしょう。これから本当の課題は、技術が進歩するかどうかではなく、社会がすべての人に居場所を確保できるかどうかということです。